第６１回理工学部学術講演会開催にあたって

第６１回理工学部学術講演会が，平成２９年１２月１日に例年と同様に理工学部駿河台キャンパスの１号館を会場として開催されます。今年も例年通り，６００件を超える講演が予定されており，その内訳は，口頭発表が３２５件，ポスター発表が２９０件（合計で６１５件）となっています。また，例年同様，理工学部学生による優秀な口頭発表・ポスター発表については，優秀発表賞を授与し，表彰する予定です。

本講演会では，例年，１７の専門部会での発表に加えて，学術賞受賞者による記念講演，前年度のプロジェクト研究助成金ならびに応用化学研究助成金による研究の成果発表が行われています。昨年度は，これらに加え，６０回記念として，特別セッション「理工学部における研究の社会実装―これまでとこれから―」が初めて開催されました。今年度も，「理工学部における研究の社会実装―これまでとこれから―（その２）」として，３部構成で，研究の社会実装に関する特別セッションを開催します。特別セッションでは，社会実装の事例の発表の他，そもそも研究の社会実装とは何なのか，という点についての講演・議論の場も設けております。

最近では，本講演会は卒業研究や博士前期課程の大学院特別研究の中間発表という色合いが濃くなっています。その中で，本講演会の役割として，専門分野が異なる教員・学生が一同に介して議論ができることが挙げられます。これは，学生の能力開発や客観的評価のための複数教員指導制が推奨されつつある最近の流れに合致しており，本講演会の教育面での役割はますます大きくなっていくと思われます。

一方，学生を含む研究者にとっては，本講演会で研究発表をすることにより，一般の学会と同様に，異なる分野の方々から普段とは違う視点の質疑を受け，それに答えることで，自身の研究の意義・位置づけを改めて認識することができます。また，新たな研究テーマを見出す，さらには、学際的な研究に取り組むきっかけにもなることでしょう。言うまでもなく、研究は自分だけのものではなく，その成果を他の人に知っていただき，理解していただき，批判，評価していただいてこそ価値あるものになります。その意味でも本講演会は，発表する皆さんにとって，これからの学会発表や論文投稿の質を上げるためのたいへん貴重な機会です。是非とも，本学術講演会をバネにして，新たなステップを踏み出していただきたいと思います。と同時に，今後は教員や博士後期課程の学生の皆さんの最新の研究成果に関する発表が増え，より質の高い議論がなされることが期待されます。さらには，オープンイノベーション，あるいは，共創的イノベーションといった言葉とともに，新しい価値の創出のみならず，その社会実装が叫ばれている昨今の社会状況をみますと，研究成果を社会実装していくことも強く意識すべき時代になっていると思います。そこで，今年度も昨年度と同様，上述の特別セッションを企画しました。研究の社会実装は，言うは易し，行うは難し，とよく言われますが，自身の研究の社会実装について具体的に考えるだけでも，研究の質を高め，新たな方向性を見出すよいきっかけになるのではないでしょうか。その意味で，上記の特別セッションには，お時間の許す限り，是非，ご参加いただきたいと思っております。

理工学部は，研究大学としてさまざまな研究に積極的に取り組む姿勢を学部全体でサポートしています。理工学部学術講演会は，理工学部の学術，技術並びに教育振興のため，教職員は普段の研究・教育等の発表の場として，大学院及び学部の学生等には日頃の学習成果を十分に発揮する場として活用されています。

最後に本学術講演会開催にあたり，実行委員会の先生方ならびに事務局の皆様方のご努力とご協力に感謝いたします。

理工学部学術講演会実行委員会委員長
宮崎　康行